

サーバハウジングサービス

サービスレポート2013



ヤマトシステム開発株式会社

も く じ

1 : 国際規格準拠の IT サービス	1
2 : 個人情報保護への取り組みについて	1
3 : 新東京 IDC の主要設備	2
4 : 新東京 IDC のグリーン IT への取り組みについて	3
5 : サービスレベル	5
5-1 : サービスレベル	5
5-2 : サービスの報告 (2012 年実績)	6
5-3 : 障害記録の報告	7
6 : サービス改善 (2012 年実施)	7

弊社 新東京 IDC をご利用のお客様を対象に、設備・運用状況などを
年 1 回公開しております。

1：国際規格準拠の IT サービス

昨今のビジネスではIT サービスが事業の根幹を担うことも多くなっています。

そしてIT サービスの品質低下が、ビジネスそのものの品質低下に直結することも少なくありません。

またサービスの停止のみならず、一部に障害が発生した場合や情報漏えいが発生した場合、組織や社会に大きな影響を与える可能性があります。

IT サービスにおいてはそのような運用上のリスクに備えるだけではなく、サービス品質や情報セキュリティ対策にも、これまで以上に慎重に取り組まなくてはなりません。

弊社ではお客様の大切なIT 資産をお預かりするハウジングサービスにおいて、セキュリティ強化だけではなく、継続的な品質向上と安定運用やお客様からのご依頼への迅速・確実な対応が必須と考えております。

そこで、運用の可視化や社内体制の整備に努め、これまで以上にお客様に安心して業務をお任せいただけるマネジメントシステムを構築し、運用に取り組んでおります。

新東京 IDC におきましては、サーバハウジングのセキュリティ対策や品質向上のためのワーキンググループが組織され、当サービスは ISO27001・20000・9001 の3つの国際規格に準拠していることを第三者審査により認められました。

◎ISO27001 (ISMS)：情報セキュリティマネジメントシステム

IS 546671

◎ISO20000 (ITSM)：IT サービスマネジメントシステム

ITMS 508435

◎ISO9001 (QMS)：品質マネジメントシステム

FS 508432

2：個人情報保護への取り組みについて

弊社では情報サービス業として事業を行うにあたり個人情報を含む情報資産をさまざまな脅威から守るため、グループ企業理念に基づいて情報セキュリティに関する基本方針（プライバシーポリシー）を定めており、中でも個人情報の保護についての取り扱い規範は個人情報保護法およびプライバシーマークに準拠させています。社内各部門でそれらを厳正かつ適切に運用し、情報資産の保護に努めてまいります。

弊社ではワーキンググループを中心に全社展開を図り、1999年からプライバシーマーク使用許諾の認定を受けております。

◎プライバシーマーク（全社）

11820042(08)

3：新東京 IDC の主要設備

- ◎耐火構造
- ◎免震構造
- ◎雷害対策（統合接地設備）
- ◎水害対策
- ◎窒素ガス消火設備
- ◎無停電電源装置、非常用自家発電装置
- ◎ビル内外に監視カメラを設置
- ◎フロア単位での非接触 IC カードによるセキュリティ管理の実施
- ◎バイオメトリクス認証装置の採用
- ◎IDC 入退館および、サーバーーム入退室を 24 時間 365 日監視

4：新東京 IDC のグリーン IT への取り組みについて

企業のグリーンITへの取り組みとして、データセンターへIT機器を集約することによる電力消費の抑制効果や、ブレードサーバや省電力サーバの導入による効率化などが謳われておりますが、近年は集約されるデータセンター自体のグリーンIT化も重要視されるようになってきております。

新東京 IDC では建設当初から環境保護や省資源への取り組みを行っており、省エネルギーシステムの採用・資源適正利用・自然環境保護の3つの観点から設備を採用しております。

◎氷蓄熱システムの採用

夜間の割安な電力を利用して製氷を行い、その氷を昼間の空調に使用するシステムです。
夏場の電力削減だけでなく、システム自体が燃焼を行わないためCO₂などの排出も抑えております。

◎雨水利用システムの採用

屋根などに降った雨水をタンクに集水し、砂濾過装置と塩素注入で水処理を行い再利用する仕組みです。
年間降雨量から約2000立方メートルを有効活用することとなり、水資源の節約を行っております。
さらに、雨水を利用した屋上散水による、外気温の低減効果にて空調室外機の効率向上を図りました。

◎Building and Energy Management Systemの導入

室内環境やエネルギー使用状況を把握し、併せて室内環境に応じた機器や設備の運転管理を行うことにより、エネルギー消費量の削減を図るシステムです。新東京IDCでは建物全体のエネルギー消費量を約8%削減効果が確認できております。

◎屋上緑化の採用

ヒートアイランド現象の緩和のため、東京都の基準では、基準敷地面積ー建築面積の20%以上の緑化を確保する必要があります。新東京IDCでは約40%を確保しております。

◎外壁タイルに親水性タイル導入

新東京IDCの外壁タイルには水を広がらせる機能を長期間保持する親水性タイルを採用しております。
このタイルは排気ガスや粉塵などが付き難いだけでなく、雨水が汚れを落とす役目も果たします。
これによって洗浄作業頻度の低減を図ることが可能となり、化学洗浄剤の使用を減らしました。

◎分離空調方式の導入（グリーンIT化プロジェクト）

効率の良い空調環境を実現するため、増床したサーバールームのラック上部の熱気を排出するダクトを設置した「分離空調方式」を導入致しました。

これにより、サーバールームに内在する課題となっている熱だまりの問題が解消され、部屋全体の空調効率が向上致しました。

従来の分離していない空調方式と比較して、空調機の消費電力を、約40%削減し、CO₂排出量についても年間約142トン低減することができました。

上記検証の結果、効果を確認致しましたので、当センター開設当初より稼働中のサーバールームにおいても追加導入し（排熱ダクトを設置）、熱だまりの発生防止と空調の効率化を致しました。

◎共有部設備のグリーン化（省エネ対策）

廊下の照明をツイン蛍光灯からLED式照明に全て交換し、節電を実現しました。
また、社員用通用口へのエアカーテンの設置により、外気を遮断し、室内の空気を逃がさない工夫を行うことで、空調効率の向上を図りました。

◎サーバールーム照明のLED化（更なる省エネ対策）

2011年実施した共有部設備のLED化に加え、お客様にご利用頂いておりますサーバールームについてもフロア照明のLED化を実施致しました。（2012年6月実施）

以上のような環境に配慮した設備だけでなく、新東京IDCでは人にも配慮した設備を採用しております。

◎段差の負担軽減

正面玄関ロビーにリフターを設置し車椅子での入館に考慮しているだけでなく、新東京IDCの南と東の2箇所にもスロープを設置し、バリアフリー化による入館者の負担軽減を図りました。

◎バリアフリーに配慮した設備の採用

新東京IDCでは障がいをお持ちの方へ配慮した多目的トイレ設置だけでなく、誘導及び通行を円滑にするためにスロープの設置など視覚障がい者用の注意表示や誘導床材を敷設しております。

5：サービスレベル

契約顧客様のみの公開とさせていただきます。

契約顧客様のみの公開とさせていただきます。

6：サービス改善（2012年実施）

【総括】

弊社新東京IDC開設当時より、様々な環境への取り組み活動をおこなっておりますが、2011年3月に発生した「東日本大震災」以降、エコ活動への取り組みをさらに強化しております。

2012年は、昨年に引き続き節電を押し進めるべく、さらに節水も強化する対策を実施致しました。

以下に詳細のご報告を致します。

【館内設備対策】

①全館LED照明の導入

2012年6月実施

2011年は、共有部（廊下、トイレなど）の照明のみLED化を実施致しましたが、2012年はLED化の対象範囲を、館内事務フロア及びお客様にご利用頂いておりますサーバールームを含めた全館に拡大致しました。

導入の際のポイントとして、LED化で消費電力は低下すると同時に、フロア内の光量の低減がないように照度検査を行いながら、今までと同じ明るさを維持した上での節電を達成致しました。

効果：事務所内の削減

⇒ 変更前（2011年）との比較 照明機器の消費電力 約50%削減を達成致しました。

②雨水利用の能力強化

2012年6月実施

2011年7月より屋上面の熱を逃がすため、屋上散水を開始致しました。

散水に使用する水は、雨水など、貯水タンクに溜まった水を、ろ過して使用しております。

導入後、散水量がろ過処理能力以上になる場合があり、その際は不足分を水道水（上水）にて補填する結果となり、貯水タンクにある雨水を効果的に使用できていないことが判明致しました。

そこで、2012年は、ろ過装置を増強し処理能力を上げて、上水の利用を減らすことを目標に致しました。

効果：ろ過の処理能力 現行比の約4倍に向上し、完全循環方式の散水設備となりました。

③ビル管理システムの改良

2012年7月実施

事務フロアの氷蓄熱式空調機の制御システムの改修を行いました。

今まで日中は、空冷式の空調をメインとして制御しておりましたが、改修後は、氷蓄熱式空調機での解氷中心の制御で行い、大量に電力を消費する空冷式空調は、フロア内が暑いときのみ使用するようにコントロールすることで、節電を実現しました。

効果：2010年7月～9月 と 2012年7月～9月のCO₂排出量比較で

9トンの削減効果がありました。

 ヤマトシステム開発株式会社

〒135-0061 東京都江東区豊洲 5-6-36 (SIA 豊洲プライムスクエア)

TEL. (0120) 01 - 0260

URL. <http://www.yamato-idc.jp/>

E-mail. webmaster@nekonet.co.jp

2013年9月6日 公開